

## マクロ分割撮影によるキトラ古墳壁画の表面状態調査結果

### 調査目的

デジタルカメラのマクロ撮影機能を使った高松塚古墳壁画の表面状態調査により、漆喰表面の広範囲にカルサイトと考えられる二次物質が存在し、その一部は色材や描線を覆っていることが判明している。この結果を受けて、キトラ古墳壁画でも同様の調査を実施した。

### 調査対象

これまでに、キトラ古墳壁画各図像のうち、四神（朱雀、玄武、白虎、青龍）各像の撮影調査を終えた。

### 調査機材、方法

デジタルカメラ： リコーGX100  
撮影光源： 白色LEDライト  
（色温度 5,900K）

撮影視野が 35 mm × 25 mm となるよう距離を調整した後、室内消灯下でLED白色光を左側から照射し、カメラを移動させながら図像の分割撮影を行った。



### 結果

- ・ 高松塚と同様、表面の広範囲に乳白色物質の存在が認められた。
- ・ ただし、高松塚と比較すると、全体に厚みが小さく、薄く広く発生している印象。
- ・ 高松塚と同じく、カルサイトと推定されるが、画像のみでは断定は出来ない。



西壁・白虎像・口唇部（部分）



北壁・玄武像・蛇胴体部（部分）